

開催にあたって

現在、私たちは歴史ドラマやゲーム、小説などを通じて川中島の合戦にかかわる物語に触れています。川中島の合戦のイメージは、そのような様々な媒体を経て広がってきました。その中の一つに、芝居があります。

本展では、江戸時代から盛んとなった人形浄瑠璃や歌舞伎に着目したいと思います。それらの芝居で取り上げられた川中島の合戦は、時に一般的に考えられているような歴史像からは大きくかけ離れた内容となりましたが、長い間人々に親しまれてきました。江戸時代から近代にかけて、人々はどのように芝居を楽しみ、川中島の合戦を芝居に取り入れていったのでしょうか。

史実から飛躍するほど面白い。そんな芝居の世界をお楽しみいただければ幸いです。

長野市立博物館



目次

開催にあたって……………	2
目次・凡例……………	3
作品のあらすじ……………	4
プロローグ……………	
芝居として——人形浄瑠璃・歌舞伎——……………	5
第一部 楽しみとして——近世芸能の伝播——……………	9
第一章 「遊び日」……………	10
第二章 伝播……………	21
第三章 地芝居の現在……………	35
第二部 芝居になった川中島合戦……………	41
第一章 川中島合戦……………	42
第二章 人形浄瑠璃として……………	49
第三章 歌舞伎へ……………	59
エピローグ 戦いと芝居……………	72
おわりに……………	75
主要参考文献……………	76
出品一覧……………	77
謝辞……………	79

凡例

- この図録は、平成三十年九月十五日から十一月四日まで、長野市立博物館で開催される特別展示「川中島合戦 芝居になる」の図録である。
- 図版の作品番号は陳列番号と一致するが、陳列の順序とは必ずしも一致しない。
- 作品保全のため、図録に掲載された作品が会場に陳列されない場合がある。また随時展示替えを行う。
- 本書掲載写真は、ご所蔵者から借用した写真の他に、次の機関よりご提供いただいた。
新潟県立歴史博物館(51)、南信州新聞社(54)、大鹿村教育委員会(参考)
- また、本書掲載写真は一部、大井川茂兵衛氏(3、4、5、6、12、18、19、21、22、27、33、37、46、55、66、67)宮武健仁氏(2、15、17)に撮影を委託した。
- 人形浄瑠璃や歌舞伎の上演日時、内容については、演劇情報総合データベース・デジタル・アーカイブ・コレクション(<http://www.waseda.jp/enpaku/db/>)に掲載されている番付などを参照した。
- 人形のカシラの表記については、原則は遣う人々の使用しているものに従い、淡路の人形は「頭」、文楽のものは「首」とした。他の地域の場合は、「カシラ」とした。
- できない場合は「カシラ」とした。
- 本展の企画及び図録の編集・執筆は長野市立博物館学芸員樋口明里が行い、同館学芸員原田和彦及び館員がこれを補助した。
- 関連事業として、九月十六日に今田人形座(長野県飯田市龍江)による記念公演を行った。